

クリタケ *Hypholoma lateritium* (Schaeff.) P. Kumm.

担子菌門 *Basidiomycota* ハラタケ亜門 *Agaricomycotina* ハラタケ綱 *Agaricomycetes*

ハラタケ目 *Agaricales* モエギタケ科 *Strophariaceae* ニガクリタケ属 *Hypholoma*

供試標本

小山明人標本 AK-2140, 2018年10月19日, 長野県諏訪郡富士見町(釜無山山麓), 小山明人採集

肉眼的特徴 (Fig. A)

傘は径 3.3-5.8(-8.0)cm で半球形、のちに凸状から中高扁平に開く。表面は平滑で幼時は中央部が赤褐色、周辺部は黄土色、のちに縁は淡黄土色となりわずかに白色の鱗片があるが脱落しやすい。吸水性や粘性はない。肉は中央部が厚く周辺部は薄い。淡黄色から淡黄褐色でやや軟質、わずかに橙色から赤褐色に変色する。味は温和で菌臭がある。ひだは湾生し幼時は淡灰色、開くと灰紫色となり、やや密で変色性はない。柄は 6.5-9.0 × 0.5-0.8cm、円柱状で表面は上半部平滑、下半部は繊維状からやや糸くず状となる。幼時は光沢のある赤褐色で開くとわずかに類白色となる。粘性はない。柄の肉は充実し中空、傘肉と同色で変色性はない。

顕微鏡的特徴

熱乾燥標本を用い、切片を 3% KOH に封入し、コンゴレッドを追加しプレパラートを作成して観察した。傘表皮は 3% KOH にて色彩を確認した。

傘表皮の最上層は幅 2.7-7.8 μ m、平均 = 5.3 μ m (n = 25) の細い細胞からなる数層の平行菌糸で被われる。下層は幅 7.4-28.0 μ m、平均 = 17.6 μ m (n = 16) の幅の広い円柱形から樽形の平行菌糸からなる。全体に多量の褐色色素に覆われ、クランプがある (Fig. C, D)。縁シスチジアはやや便腹状で 21.7-28.2 × 8.4-9.9 μ m (n=5)、(Fig. E)。側シスチジアも同形だがフラスコ状も混在する (Fig. F)。担子器は円柱形で 16.9-22.1 × 5.2-6.3 μ m (n=20) で 4 孢子性 (Fig. G)。担子胞子は (6.0-)6.3-6.8(-7.3) × (3.6-)3.8-4.1(-4.6) μ m、縦横比 = 1.59-1.73、縦横比平均 = 1.66 (n = 51) で楕円形から長楕円形、褐色で厚壁、平滑で発芽孔があり内部には 1 個の油球がある (Fig. H)。

生態的特徴

供試標本はミズナラの根元に束生していた (Fig. B)。

ノート

文献 1, 2, 3 とともに形態的特徴はよく一致する。学名は文献 4 に従った。

参考標本

茅野市八ヶ岳総合博物館菌類標本 F-00170, 2015年10月3日, 長野県茅野市米沢(吉田山), 上原裕雄採集; F-00348, 2017年10月7日, 長野県飯山市大字一山(茶屋池), 牛山雄二採集; F-00592, 2018年10月7日, 長野県飯山市大字一山(茶屋池), 上原裕雄採集; F-00779, 2019年10月5日, 岐阜県高山市高根町留之原(日和田高原), 三橋正浩採集。

文献 1 今関六也・本郷次雄(1987)原色日本新菌類図鑑(Ⅰ), pp 195-196, 保育社

2 伊藤誠哉(1959)日本菌類誌, 第2巻, 第5号, pp 338-339, 養賢堂

3 Breitenbach & Kranzlin, Fungi of Switzerland 4, pp 326-327, 1995

4 工藤伸一(2017)青森県産きのこ図鑑, p206, アクセス二十一出版

担当 荒野民雄、小山明人、齊藤智子、齊藤雅光、藤森政明、山田理可

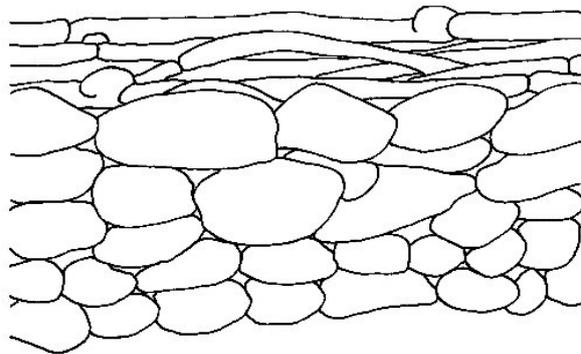
監修 慶応義塾大学准教授 糟谷大河



A 子実体



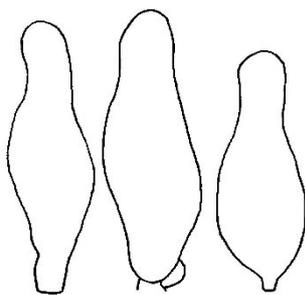
B 野外での発生状況



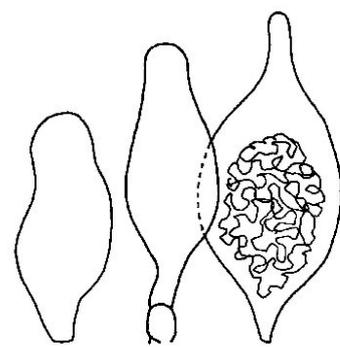
C かさ表皮



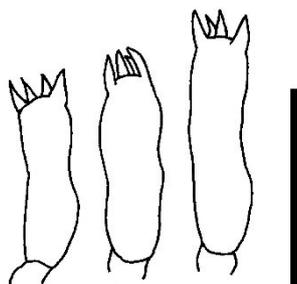
D かさ表皮の菌糸色素



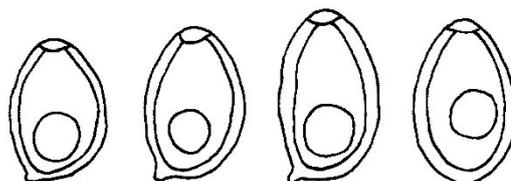
E 縁シスチジア



F 側シスチジア



G 担子器



H 担子孢子

スケールバー：C 50 μ m ; D,E,F,G 20 μ m ; H 10 μ m